

## 話題提供

### 齋藤知穂（社会福祉法人東大和市社会福祉協議会 精神障害者地域生活支援センター ウェルカムセンター長）

（齋藤） 皆さん、こんにちは。ちょっと長くて大変申しわけないのですが、ただいまご紹介にあずかりました、社会福祉法人東大和市社会福祉協議会精神障害者地域生活支援センターウェルカムという名称なのですが、そこで勤めさせていただいています齋藤知穂と申します。本日は、よろしくお願ひいたします。ちょっと座らせていただいでよろしいですか。それでは、大分緊張しておりますので、すみません、粗相があると大変申しわけないのですが。

それでは、始めさせていただきます。本日、こちらの「人をつくる・地域をつくる」というところで、障害者（児）相談支援の充実のためにということでお話を始めさせていただければと思います。

まず、地域生活支援センターウェルカムという名称なのですが、私が働いている場所の概要を、資料につけさせていただきました。

書いてあるとおりのものですが、精神障害者に特化した地域活動支援センター、I型と呼ばれる事業所で、ふだんは相談支援専門員のお仕事もさせていただいているのですが、そのほかに相談の対応ですとかセンターの事業、プログラムですとかオープンスペースもありますので、そちらの運営などを行っています。活動地域、東大和市となっているのですが、皆さん、東大和市ご存じでしょうか。神奈川県の大和市とよく間違えられまして、文書が神奈川県東大和市で届くことも多々ある町なのですが、一応地図を載せていただいています。赤いところが東大和市です。すぐ北が埼玉県に隣接しているという立地になります。人口、約8万6,000人というところで、小さな町にはなるのですが、意外や人口は増加傾向というところにあります。一応計画では、あと5年後には9万人に届くだろうと予測をされています。それに伴って、障害者の数も毎年、大体100名前後増えているという市になります。

東大和市の自立支援協議会ですが、設置が平成22年3月です。これは組織図です。全体会といわれるみんなで集まるような会議のほか、専門部会が4つございます。生活部会、相談部会、就労部会、防災・防犯部会という形で4つ

です。

相談部会のことについて、今日はお話しさせていただこうかなと思っています。こちらのほうが相談支援専門員の集まる部会になります。当然部会員は決まっているのですが、年度の途中で、その業務に携わる方もいらっしゃるのでは、一応相談支援専門員であれば誰でも参加できますよという形をとらせていただいています。

自立支援協議会自体が平成22年なので、もちろんこの部会は最初からあったわけではないです。相談部会の成り立ちですが、平成25年7月、24年から計画相談をスタートして、東大和市では一番早いところで24年10月ごろに計画の着手が始まったというところなのですが、それから数カ月たって、やはり連携していきたいよねということで、まず計画相談支援事業者連絡会、略して計相連と格好よく言っていたのですが、こちらを立ち上げています。当時、計画相談を行っていた4事業所が参加をしています。目的としては、計画相談支援事業所の情報交換であるとか、後は地域課題の抽出というところを目的としています。私、このときには実は関わりはなかったのですが、ここですごいなと思ったのが、最初の最初から地域課題の抽出を目的としましょうという目的があったんですね。いわゆる今でいうメゾへの働きかけというところですよ、今はやりのところでいうと。自立支援協議会の専門部会にしてもらおうということで当初から要望をして、翌年度4月に専門部会、名称を相談部会という形でやっています。現在7事業所が参加をしているというところで、これも結構頻回かなと思うのですが、月に1回必ず第3月曜日に決めてやらせていただいています。

今相談部会で何をしているかということなのですが、今までのことをお話ししながらやってきたことについてお伝えできればと思います。

まず取り組んだことなのですが、専門部会になったときに、部員の思いとしては、この部会を絶対形骸化してはいけないよねというような思いがすごくあったのです。自立支援協議会って、余り大きな声では言えないですが、結構形骸化しているじゃないですか、皆さん、「うん」と言ってくださる方もいらっしゃるのでは安心しました。どうしても障害の種別によっても、知識も経験も違う方が集まって、「はい、話しなさい」と言ったところで、相互理解というものもないような状況で、何となく市役所に呼ばれて、区役

所に呼ばれて行って見て、何かわからないけれども話し合って終わりましたみたいなことになるのは、東大和市のほかの部会でも、ちょっとそういう傾向があったので、相談部会は、それはやめようと。形骸化はしないようにしよう。とてもさまざまな立場の方が参加をしているのです。高齢のケアマネから相談部会に来る方もいらっしゃるし、障害のほかの分野、私は精神障害なのですが、知的障害の方とか身体障害の方とか児童の方とか、当然行政の方もいらっしゃいます。経験値としても新人からベテランまで、全員がやはり熱意をもって参加できるところにしましょうということになりまして、当然、「相談部会は、何を指し直すかとか」「大切にすることは何ですか」と当たり前のことなのですけれども、大体偉い人とか行政とかが、こういうのを目的にしますので、「皆さんよろしく願います」となるとは思いません。そうではなくて、最初から部会の中で、きちんと議論をしました。議論をした結果、「利用者の希望や課題を明確にしていきましょう。議論してフルインクルージョンの視点をきちんと大切にしていきましょうね」ということを、改めて確認をしています。

そのために、この議論というところが皆さん書いてあるのですが、議論することでも意識も向上しますし、目標の共有ということにもなりますし、何よりもリーダーシップをとるのは行政ではないよね、私たちがとりましょうねという話に、皆さんの気持ちになりました。

そのために、それぞれ皆さん思いはあるので、ハード面も実は工夫して相談部会やらせていただいています。よく会議にありがちな口の字に机を置いて、自分の席の前に名札が置いてあってというような形ではなくて、こういう形で密集してやっています。少し見づらいかもしれないですが、これは部屋でやっている実際の絵なのですけれども、自立センター東大和という場所、毎月お借りしてやらせていただいています。そこの部屋、これが入り口で、大体こんな感じなのですが、きちりに見えるではないですか、実は撮ったときは11月の相談部会の写真なのですけれども、半分ぐらい欠席がありまして、本当はみっちみちの写真撮りたかったのですけれども、残念ながら半分だったので、想像がつくと思いますが、大体入り切らないです。毎回、この部屋みっちりになって、お茶すみませんと、手を伸ばしながら取ってというような形でやらせていただいています。

やはり私すごく思うのが、余り口の字でやると、わからないときにわからないと言えなかったり、何となく距離があるというか何となく意見が言いづらいかなという場所が、意外とここでは、この場でお酒を飲んでも楽しく過ごせる距離感というところで、わからないことがあっても、すぐ聞けますよねというような形でやっています。

当然、行政に対しても、「ちょっとやりにくいだよ」とか、「ぶっちゃけ行政としてどうなの」みたいなお話をしたいので、こちらに行政の方も参加しているのですが、本当に一参加者みたいな形で、上座に置かずやらせていただいています。余り曖昧なことは、当然、持って帰りますと言われるのですけれども、こういう形で距離を詰めて、いろいろな意見を出しやすくさせていただいています。

実際に相談部会で行ったこと、2つ目ですね、実際に計画相談を始めてから、「書式が使いにくいよね」とか、「利用者に説明しづらいよね」というような話が部会員からとても出たのですね。原因を探ってみて、この部会って何よりも当事者がいらっしゃるの、当事者に意見を聞きながらやったのですが、言ってみたら目標という言葉が、国書式にあるのですけれども、その言葉って偉そうだよ、偉いよね、私たちって人生の目標、常に頭において生活している、していないみたいな。何となく最初は、利用者信頼関係をつくるのが大切ですよというお話をしている中で、相談支援専門員自体は腰低く、信頼感を得ようねと言っている、目標を「はい、ください」と言うと、相手はなんかしっかりいいこと言わないと、「サービス使えなくなっちゃうわ」みたいなところで、ちょっと構えてしまうということで、「本音が聞きにくいよね」というところもありまして、もちろんベテランの方は、国書式でもきちんと皆さんの意見を吸い上げるのでしょうけれども、新人もいるというところがあるので、国書式から「東大和市独自の書式をつくりましょう」ということで、多分資料にもつけていただいたのですが、こういう形でやらせていただいています。言葉をとてもやわらかく、わかりやすくしています。目標とか主訴とか、そういう言葉はなるべく省いて、わかりやすいものをつくりました。

実は、これをつくって、当然東大和市のホームページにアップしているのですが、ほかの行政から、これを使わせてくださいというような依頼もありまして、とてもうれしかったです。

相談部会で行ったことの3つ目。相談部会では事例検討をしているのですけれども、先ほどから言っているようにベテランも新人もいるということで、「自分のケース、事例検討に出すの初めてなんですよね」とか、「どういうふうに事例検討していいのかわかりません」という方が多かったのです。それは新人が言うてくれてよかったのですが、ベテランも意外とわかっていなくて、でも言い出せなくてということが多かったのです。どうしても月に1回やっているとはいえ、限られた時間、みんな忙しい中集まっているというところで、その中で「建設的な意見交換ができたらいいよね」とか「相談支援の質を上げたいよね」ということで、事例検討のガイドラインを作成いたしました。

意外と私がすごく良いなと思っているところは、自画自賛なのですが、どのような事例が検討に値するかということで、⑥で、「その他、めっちゃうまくいって、ぜひともみんなに自慢したいところも、ぜひ出してね」というふうにさせていただいています。相談支援専門員やっている方って意外と孤独じゃないですか。いいのつくったって誰からも褒められないし、結構自己満足で終わるのですけど、何となく褒められてうれしいなという気持ちも大切です。困っている事例って当然事例検討で挙げられやすいのですけれども、やはり困っている事例を検討して、うまく解決の方向に話し合いがいても、その人だけが満足で、出した人だけが勉強になるよねということが多いのですけれども、良い事例、好事例からは全員がヒントを得られるのかなというふうには思っているのです。ただ、なかなか皆さん奥ゆかしくて、自慢する事例というのが出てこないのですが、次に私の番が回ってきたら出してあげようかなと思っているのですけれども、すごく良いガイドラインが作れたなというふうに思っています。

こういうガイドラインがないと、注意を「する人」とか「される人」というのがどうしても固定化してきてしまうのですよね。上下関係はないはずなのに、上下関係が出てきてしまうということがありますので、事前に取り決めておくことで、そういう関係もできないようにしていきましょうというような意図もあったと思います。

次、相談部会で行ったことの4つ目なのですが、事例検討をしたりとか地域課題の抽出の話し合いの中でなのですが、東大和市は先ほども見ていただいたようにとても小さい市です。社会資源

もとても少ないです。精神障害の分野でいうと、就労移行とか就労継続A型とか生活訓練の施設が市内にないです。なので、当然他市の資源を利用されている利用者さんが多いです。なので、私たちの中に、他市の情報が利用者さんを通じておりにくるのですよね。当然、他市のほうでお友達できて、「あのお友達、こういう資源使ってるんだよね、私も使いたいんだけど」みたいなお話が、こちらにおりにくる感じなのです。

でも、なかなか、実は情報収集が難しかったりとか、あとは、こんな課題を持っている人、当然隣の市だっているはずだけど、ほかの市はどうしているのかなという疑問が出てきたので、他地域との相談支援事業者連絡会との交流会を開始しています。具体的には隣の小平市さん、平成27年8月からですけれども、交流会、ちゃんと会議とかにも傍聴させていただいているのですが、ほぼ飲み会がメインにはなるのですが、そういう形で交流というのをやっています。

それが広がって今度12月12日、来週の月曜日なのですけれども、今度は反対のお隣の武蔵村山市さんのほうの相談支援事業者連絡会とも交流会を持つ予定ということで、少しずつ広がりが出ているかなというところなのです。

次に、相談部会で行ったこと5番目なのですが、事例検討を重ねた結果、何となく支援のタブーってありますよね。具体的に言うと、平成27年度の学習会でやった障害のある方の性。将来どうなりたい、どう暮らしたいという話を聞くと、結婚したいとか家庭をもって子供を育てたいとか、そこまでいなくても恋人がほしいという方ってほぼほぼいらっしゃる。でも、何となく隣のお母さんは苦笑いみたいな感じで、うん、頑張ってみたいな感じで、そこのところは何となく支援者が入るところではないのかなというふうな、そういう反応でいいのかなという、何か違うよねというところで、タブーにするのは嫌だよねというところなのです。それで、意外と恋人がいれば仕事が頑張れますとかいうことで、言い方が悪いですが、恋愛ツールって意外と優秀なモチベーションになるというところもあるので、きちんと学びましょうというところなのです。

逆に、家族は当然反対をするのですよね。なんで反対するかというと、だって面倒を見るのも、大変な思いをするのも結局私たちなんだからというふうな形になるのです、なのできちんと勉強しましょうよと。障害のある方だって結婚されてい

る方、子供いる方、いらっしゃいますよね。そういう方たちが、どういう形でやっているのかとか、どういう支援が受けられるのかというのをきちんと学習しましょうということで、平成27年度の学習会で先生をお呼びして、保護者とか支援者バージョンと利用者バージョン、全部で2回やらせていただいています。

平成28年度の学習会では、自立をしたい、でも自立できないという方が多くて、特に知的障害の方に多いねという話になりました。何となく本人たちはひとり暮らししたい、自立したいという思いがあるのだけれども、保護者とか関係者が、いやいや、だめだよ、実家にいなさいよ、グループホームにいなさいよ、というような思いが先行して、その方の生活が決まっていなかなというところがあります。知的障害のある方の主体的な地域生活を考えるというところなのですが、実際に障害があって、ひとり暮らしをされている方と、東大和市内で、ひとり暮らししていないのだけど、したいなという方と、その反対している親御さんとかをお呼びしてお話を聞きました。わからないこと、こういうふうに支援を受けているのですよというような形で、いろいろなお話を聞けて、その学習会に出たことによって、ひとり暮らしできるよね、前向きになりましたという方がいらっしゃいます。

ひとり暮らしをしたいというときにひとり暮らしできると、大変なことも当然あるのですが、楽しいのですよね。この機会を逃して、親御さんが入院されたとか高齢になられたときに、ぼんと強制的にひとり暮らしをしなければいけなくなると、やっぱり不安とか大変さのほうに前に押し出されてしまうのです。それで重厚な支援が必要になってしまうということになるのですが、そうではなくて、ひとり暮らしができるタイミング、したいタイミングでできるように、支援ができる制度というのをつくっていきたいねというようなお話になっています。

最後のページ、これからというところで、今回人材育成がキーワードというところなのですが、実は東大和、ちょっとお話をしたのですが、人材育成が大事なのはとてもよくわかるし、したいのですけれども、実は現状維持とか質の維持が精いっぱいかなと。一人一人の意識は高くても、事業所の方針もありますよね、障害の計画相談を頑張るぞと思っている人が、いやいや、あなたはちょっとケアマネのほう行って、高齢のほうに行って

みたいな形でやられてしまったりとか、相談部会、忙しいから行かなくていいよみたいな形で、ちょっと離れてしまうというようなこともありまして、「実のある、でも楽しくて行きたくなるような役に立つ活動をしていかなければならないかな」、「そういう存在に、相談部会がなければいけないかな」というふうに思っています。

私たちの強みということで2つ書かせていただいています。意外と自立支援協議会は固くて、でも、都も補償してくださっている正式な場所なので、先ほど言ったような性のお話とか親御さんにケンカを売るのではないですけれども、親御さんの方針に反対するような計画をたてても、意外と許されるというか、許されているのかわからないですけれども、許されるということになります。

自立支援協議会で伝えていくことが大切だから、相談部会にぜひ出てくださいという形で、その事業者の上のほうの方に訴えることもできますし、会議があって忙しいのに嫌だなではなくて、この自立支援協議会というのを最大限に活用して、障害者が制度に適応するという今までのやり方ではなくて、制度が障害者の必要に応じられるような制度というものを東大和で構築できればいいなというふうに思っています。

実は、これまでの活動を通じて住みなれた場所、東大和で親と当事者本人のために自身体験事業ができないかということで、今相談部会で検討しています。先ほども言ったように、社会資源で生活訓練とかいうところがないので、もしもそういう事業を使いたい方は結構遠くに行かなければいけないのです。今まで東大和で、東大和市だったら顔見知りもいるし、支援してくれる人もいるし、近所の人も優しいし、ここでだったら生活、ひとり暮らしできそうだなという人を、他市にぼんと、こっちで体験していらっしゃい、訓練していらっしゃいとしかなかったのです。それって全然違うよねという話になっていて、実は小平市さんとの交流会のときに話を聞いて教えていただいたのですが、小平市さんが独自で自身体験事業ということで、市内のグループホームを借り上げるという形で、自身体験ができるという独自のものがあるので、ぜひ、それも東大和で、東大和市に即した形でという形でできないかということで模索をして探っています。それがうまくできれば東大和に提案をして、うまいこと乗れば良かなというふうに考えているような状況です。

最後、時間が遅くなって申しわけないです。  
最後になんですけれども、本当に今までお話ししたように、一人一人の相談支援専門員だとなかなか思いつかなかったり、これをやりたいけど、まあいいかというふうになってしまうところが、自立支援協議会とかに乗ると、じゃああそこも使えるよね、こういうやり方もできるよねと、いろいろお話ができるのですよね。情報が全てで、武蔵村山市さんと交流をされていて、きっと、またヒントになるようなことが知れるのかなということで、今からワクワクしています。ぜひ他市の皆さん、近くの方でなくても、東大和市の近くの方でなくてもいいのですが、「うちの市でこういうことやってるよ」、「東大和市もいいんじゃない」ということがあったら、ぜひぜひ教えていただければいいなと思いますし、「もうちょっとこういうことを、東大和市でやってることを知りたい」というところがあれば、どんどん声をかけていただけると、こちらとしてもうれしいなと思っています。

以上、最後早口になりましたが、すみません。  
ご清聴ありがとうございました。